



NEWS LETTER かながわ



2025 年度第 1 回神奈川支部研修会報告

講演会+ワークショップ

＜2025.9.7(日)ユニコムプラザさがみはら＞

2025 年度第 1 号(通巻第 37 号)

2025 年 10 月版 神奈川支部発行

連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

- 「オープンダイアログ」のアプローチで考える、ひきこもり・不登校への支援
- 講師：斎藤環氏（筑波大学名誉教授、つくばダイアログハウス院長、精神科医）

講師の斎藤環先生には、ひきこもりや不登校等の実態や背景についての講義のあと、オープンダイアログの講義及びワークショップを行っていただきました。講義冒頭では、「ケアと対話を持ち込まない限り『不登校』は解決しない。学校は指導中心主義でケアの発想に乏しい。対話はパワーに敏感。指導ではなく、本人の話をフラットに聞く関係性が大事」といった学校文化に対する問題提起がありました。不登校から社会的ひきこもりに移行する人は 20%～28%おり、中高時代から不登校になった人は長期化しやすく、長期化に至った事例は精神症状や家庭内暴力などの問題行動が出やすい。そうすると自力で社会参加を果たすことは著しく困難で、8050 問題に発展しやすい。社会的ひきこもりは、本人⇄家族⇄社会の関係性が悪循環に陥っていることから生じ、当事者は社会的に孤立し、孤独感や様々な生きづらさを抱えている。支援者は本人の主体性を尊重しながら本人の「自律」という方向性を共有し、「つながること」つまり「孤立させないこと」を目的とした『伴走型支援』を続けることが大事であるとのことでした。家族は、本人が安心してひきこまれる関係づくりを目指すことが必要で、本人との「対話」(挨拶・誘い・お願い・相談)を回復→継続させることが大事というお話でした。

次に、社会的ひきこもり支援に有効な「オープンダイアログ(開かれた対話)」についての講義がありました。「オープンダイアログ」とは、フィンランドの西ラップランド地方で 1980 年代から実践されているケア技法/システム/思想で、ケロプダス病院のファミリー・セラピストたちが中心となって行った治療モデルであり、大きな効果が認められたものであること、「オープンダイアログの 7 つの原則」とは、①即時対応②社会的ネットワークの視点③柔軟性と機動性④チームが責任を持つ⑤心理的連続性⑥不確実性に耐える⑦対話主義であり、対話の目的は、「変えること」「治すこと」「(何かを)決定すること」ではなく、対話を続け、広げ、深めることを目指すということなどを教えて頂き、とても勉強になりました。

後半は、ワークショップでした。2 人組で、「話す時間」と「聴く時間」を分ける体験をした後、5 人組になり、2 人の対話を 3 人が聴いた後にリフレクティングし、それを 2 人が聴くという体験をしました。その後、同じ 5 人組で、ひきこもりのシナリオロールプレイを行いました。役割分担をしてシナリオを読むという形でしたが、実際の「オープンダイアログ」を身をもって体験することができたように感じました。最後に真ん中に小円形に椅子を置き、一脚に着席されている斎藤先生に質問や感想を述べたい人が交替で座って発言し、周りを参加者全員が大円で囲み、それを聴くというフィッシュボールも体験しました。どれもこれも新鮮な体験で、非常に有意義な研修会となりました。

アンケートへのご協力ありがとうございました。ご意見ご感想の一部を紹介させていただきます。

アンケート結果（アンケートへのご協力ありがとうございました。ご意見ご感想の一部を紹介させていただきます。）

■研修の内容について

- ・オープンダイアログは、興味ある分野でしたが書籍などでは、なかなか実感を掴めないところもあり、わかりやすい講義と体験的な理解ができたことが、とても良かったです。
- ・ワークショップで理解が深まりました。齋藤先生のお話が直接伺えたのは、貴重な機会でした。
- ・対話の重要性という言語化された部分と同時に、ワークショップで体験的にオープンダイアログの構造的なユニークさや支えられている感覚を感じることができた。
- ・オープンダイアログを初めて知りました。リフレクティングという方法が新鮮でした。「本人の噂話を本人の前でする」というと、あまりいいイメージはしませんが、客観的に話せ、客観的に聞けるという利点があると感じました。今後、どう活かしていけるか考えていきたいです。
- ・対等な立場で、肯定的な視点を保ち本人について話し、受け止める場をいつか実現したい。
- ・オープンダイアログにおける対話の重要性について理解できました。耐性をどのように得て、職制や機能などを手放せるかが鍵になると思いました。
- ・日頃の疑問や迷いについて、肯定いただけたように感じ、前向きに対話実践をしていこうと思った。仲間を増やしていくということはすぐには難しくてもできるところからやっていきたい。
- ・多職種でご家族に関わる仕事をしていますが、先生がおっしゃったように「伝言ゲーム」になりがちです。オープンダイアログの視点で、チームで関わるやり方を模索していきたい。
- ・実際にワークに取り組む中で対話を続けること、相手を否定しないで話を聞くことの難しさと大切さを改めて感じました。
- ・正直なところ、すぐに実践に活かすことは難しく、いろいろなハードルも多いと感じています。それでも、対話していくことの重要性や、こちらの不安を軽減するための助言は避けるべきこと、リフレクティングの中で強制はせず、アイデアを出していくことなどはとても参考になりました。引き続き学んでいきたいと思います。
- ・自分の仕事への落とし込み方については工夫が必要とは思ったが、オープンダイアログの考え方や実践についてはとても魅力を感じた。実習で感覚を通して学べた事もとても良かった。
- ・ひきこもり当事者、家族が社会から離れて安定するという話、不登校やひきこもりに自明のゴールを言わないことなど、印象的でした。オープンダイアログを実践するには、チームの中で共有する高い意識が必要だなと感じました。しかし、とても有効で、当事者にも希望の持てる時間になるとも思いました。
- ・オープンダイアログの効果の高さに驚きました。少しずつでも工夫して、自分が勤める通級指導教室で生かしていきたいと思います。
- ・不登校やご家庭で困っているケースで実践してみたい。クライアントも入れて話したり、支援者のカンファレンスを見てもらうやり方は、新しい手法ですが、クライアントの意見や考えを理解すること、尊重することができ、関係がよくなることが期待できました。

【全体的感想】

- ・今回の研修会の内容について …大いに参考になった：98.1% 少し参考になった：1.9%
- ・今回の研修内容の理解について…よく理解できた：69.8% おおむね理解できた：30.2%

■開催方法や運営面について

- ・オープンダイアログに関しては、対話がマストなので、対面実施でよかった。
- ・今回の内容は対面の開催でよかった。今後は対面とオンラインの両方で選べる形だとよい。

…等 その他多数意見あり

*貴重なご意見をありがとうございました。今後の研修会に生かしていきたいと思います。

お知らせ

■ 神奈川支部 2025 年度 第 2 回支部研修会(予定)

- 日 時： 2026 年 2 月 28 日（土） 9：55～13：10 【1ポイント】（定員 150 名）
- 内 容： <講演会> 「インクルーシブな集団での発達支援」（仮題）
- 講 師： 古屋喜美代 氏（神奈川大学名誉教授）
- 形 式： Zoom によるオンライン研修
- 参加費： 本会支部会員（準会員を含む）500 円
本会員ではない神奈川在住・在勤の臨床発達心理士 5,500 円

※ 詳細が決まりましたら、神奈川支部のホームページ、またはメール配信システムにて配信（一般社団法人日本臨床発達心理士会に登録された神奈川支部会員の方のみ）します。

<編集後記>

中秋の名月の時期も過ぎ、やっと秋を感じられるようになった今日この頃ですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

臨床発達心理士会神奈川支部では、会員の皆様に有益な研修や情報をお届けできるよう、役員一同努めてまいりました。その一環として、毎年発行してきたニュースレターが、今回で通巻第 37 号となりましたのも神奈川支部会員の皆様のご協力のおかげと感謝しております。また、9 月 7 日（日）ユニコムさがみはらでの 2025 年度第 1 回神奈川支部研修会は、まだまだ猛暑が猛威をふるっていた時期の開催となりましたが、多くの会員の皆様に参加していただき、ありがとうございました。大変有意義な研修会を実施することができました。また、今回のニュースレターから、その支部研修会の報告を中心にシンプルな形にさせて頂くことになりましたので、あわせてご報告させていただきます。

今回のニュースレター全体をお読みになったの感想や、今後のご希望などありましたら、神奈川支部宛てメールアドレス（jacdpanagawa@gmail.com）にご連絡をお願いいたします。

（研修担当 橋爪美津子）

